

前回（第 1 回）研究会のまとめ

	発言の要旨	対応と関連資料
系的整理 コベネフィット対策抽出に向けた体	コベネフィット対策を抽出するには、 <u>温室効果ガス（GHG）削減ポテンシャルと廃棄物の削減（3R）ポテンシャルが大きい事業を網羅的に整理し、両者が重なる部分を見つける方法がある</u>	産業廃棄物の業種別、品目別排出及び一般廃棄物の排出状況から、GHG削減ポテンシャルが高いものを対象する 資料4に整理
	GHGの削減には、発生源となるものをそもそも使わない、長期ストック、石油の代替として利用する方法がある。温暖化係数が高いものの優先もある。廃棄物の各種の処理方法は、どれに該当するか体系的な整理を行うべき	GHGの削減に係る取組を体系的に整理する 資料4に整理
者の調査 廃棄物処理業	廃棄物の処理方法を変更することでGHGを削減できるものがあるはず。どこでどんな廃棄物が発生し処理されているかは <u>産廃処理業者が情報を持っている。事業者の声を聞くことが大切である</u>	産業廃棄物処理事業者による温暖化対策に係る取組について調査する 資料3に整理
棄物業者の役割 3R推進における廃	リサイクル法の対象となっていない分離分別、付着物除去が難しい複合材廃棄物のリサイクルは <u>コストがかかる。コストがカバーされる仕組みがあれば多様な廃棄物が資源として有効活用される</u> 。低炭素社会構築やJ-VERの検討には、そうした視点が必要である	該当する事例をコベネフィットプロジェクトを検討する対象として抽出する 資料4に整理
	廃棄物がエネルギーや資源として有効活用されるには、 <u>排出事業者による発生段階での分別への協力や収運業者、中間処理業者、利用者のネットワーク化等仕組みを作って初めて成立する</u> 。そうした仕組みづくりに対し本事業がどのように支援できるかが課題である	該当する事例をコベネフィットプロジェクトを検討する対象として抽出する 資料4に整理

	発言の要旨	対応と関連資料
	バイオマスを利用する際、 <u>必要量を収集するのはたいへんなことであり、発電事業では成否を左右するほどである。バイオマス燃料利用の部分だけでなく、必要量の収集もJ-VERの対象となるのではないか</u>	該当する事例をコベネフィットプロジェクトを検討する対象として抽出する 資料4に整理
の抽出 コベネフィット対策の事例	産業と廃棄物両セクターが関連する取り組みをスコープに入れて考えたい。廃棄物セクターのGHG削減対策として、収運から最終処分においていかに省エネを進めるか、又は産業セクターとの協力等によりエネルギー回収が徹底できるか課題である。どの部分がクレジット化できるか、方法論を検討できるか議論したい	該当する事例をコベネフィットプロジェクトを検討する対象として抽出する 資料4、5に整理
	有機系の産業廃棄物が埋め立てられたり、下水汚泥が処分場に埋め立てられるケースが散見される。処分場からのGHG削減量についてはCDMの方法論がJ-VER化の参考となる	該当する事例をコベネフィットプロジェクトを検討する対象として抽出する 資料4に整理
	産業廃棄物、特に建設系の廃棄物は3R推進上の課題がある。カーボンオフセットやJ-VERに載るなら解決のきっかけとなるので、検討の対象になるとよい	該当する事例をコベネフィットプロジェクトを検討する対象として抽出する 資料4に整理
	建築物の分別解体により廃棄物のリサイクルがより推進された事例があるので参考になる。	該当する事例をコベネフィットプロジェクトを検討する対象として抽出する 資料4に整理
	GHG削減に産廃処理業者が果たす役割は大きいので、 <u>処理業者が介在できるプロジェクト</u> ができるとよい	該当する事例をコベネフィットプロジェクトを検討する対象として抽出する 資料4に整理
	GHG増加の要因となっているプラスチックの焼却に対処できるプロジェクトをさがすべき	該当する事例をコベネフィットプロジェクトを検討する対象として抽出する 資料4に整理

	発言の要旨	対応と関連資料
	何がコベネなのか明確でない。埋立量の削減や環境負荷の低減等 GHG の削減と廃棄物の 3R の両方が達成されるもので、J-VER で定量化できるものは示すべき。全てが J-VER 化できないだろうが必要な作業である	コベネフィットの該非について評価を行った 資料 4 に整理
情報コストの	GHG 削減に係る各種の取り組みがどのくらいの削減効果があり、どのくらいのコストを要しているかの情報を収集することが重要である	データ調査中